

太田東西かわら版

おんころころせんだりまとうぎそわか

2021.6

夫婦で在り続ける意味



出雲大社で真剣に祈っている男性。
彼は右写真のお父さんの息子さんです。

昨年のお父さんに刺激され、出雲大社
参拝を今年5月、決行したそうです。

その息子さんの参拝動機。
メールでお手紙をいただきましたので
以下、皆さんに公表いたします。



婚姻届を出して7ヶ月が経った今年2月。離婚届を提出しました。
まさか自分が離婚することになるとは夢にも思っていませんでした。

離婚の理由はいわゆる「価値観の違い」でした。
よく離婚の原因と言われているのはこれか、と思いました。

夫婦としてこの先何十年と一緒に生活していくうえで、
お互いの譲れる部分と譲れない部分の折り合いがつきませんでした。
どちらが悪いとかではないのですが、個人的にはこの結論に至ったのは
残念でした。

式を挙げる直前に離婚届を出しました。その後、結構な時間落ち込んでいた
のですが、最近その事実をしっかりと受け入れられ、前向きに考えられ
るようになったのでこの場をお借りしてご報告させていただきます。

家族もこの決断を優しく受け入れてくれました。
家族には色々と相談に乗ってもらったので感謝しかありません。

今回の離婚を機に、自分の将来を真剣に考えるようになりました
今までは、「こうなればいいかな～」と漠然と描いていた将来像も
「こんな自分になりたい!」「ではそのために今何が必要か?」など
具体的に“本気”で考えるようになりました。

離婚という経験はしなくてよいなら、しない方がよいかもしれません。
しかし、この出来事は自分の人生に必要だったと前向きにとらえて
これからの人生に活かしていきたいと思っています。

みなさまには昨年、結婚報告の際、たくさんお祝いしていただきました。
こうした結果を表明することに正直ためらいましたが、自ら決断したこの
結論は、恥ずかしいことでも隠すことでもない。事実を述べこの場を借り
て改めての御礼と離婚のご報告をさせていただこうと思いました。

父が記した 2017年2月号太田東西かわら版
「結婚」って何のためにするの?に以下の記載がありました

離婚でよく耳にする言葉が「価値観が合わなかったから」。
育ってきた環境や立場や趣味も、家族も違う夫婦二人の価値観や考え方が
ピッタリ一致するなんて、あり得ないことです。

結婚とは水と油が混ざり合っていくこと。混ざり合う努力をしていく生活。相手に歩み寄る姿勢。自分の思考の範囲を、より広げていこうとする姿勢。それなくして「夫婦円満」は不可能です。(以下略)

今の私には、何とも耳の痛い内容です。(^-^；
さらに、ネットのウィキペディアで「離婚」というワードを調べてみると婚姻関係にある生存中の当事者同士が有効に成立した婚姻を婚姻後に生じた事情を理由として将来に向かって解消することをいう。

この「将来」という言葉に深く感銘し、お互いの将来のために離婚するという決断に至りました。
強がりではなく、憎しみ合っただけの、憎悪の念からの離婚では決してありません。どちらかに決定的問題行動があった、でもありません。

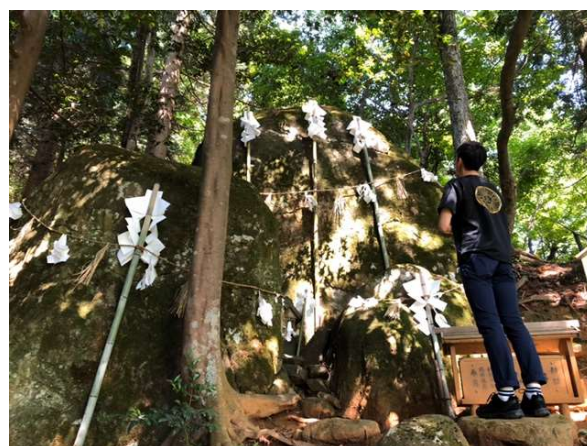
夫婦の将来像を考え抜いた時に、二人は同じ方向を目指していないことに気づきました。一番の方向性の違いが、それぞれの「健康観」でした。

お金に対する価値観など、すべては<健康に対する価値観>に帰結するという事に気づきました。夫婦の健康観が合わなければ、「時間とお金を何に使うか?」「何を食べるか?」「休日はどう過ごすか?」など多岐に渡って影響し、それが異なれば異なるほど共に慢性的ストレスに見舞われる。一緒に過ごして痛感しました。

自分の価値観に見合ったパートナーとの出会い。それが幸せな結婚に、人生につながる。離婚を経験して確信しました。

健康観・人生観の合うパートナーとの縁を得るべく、縁結びの神様で知られる出雲大社に出かけました。

反省と学びを糧に、次こそ！頑張ります！！ 長男 太田隼斗(けいと)



「長男が昨年結婚して、今年離婚した」という事実をどうするか？
相手の立場があることなので公表することを迷いましたが、本人たち曰く
“前向きな別れ”ということでしたので、この場でお知らせしました。

最初はどのカップルも、相手の良い部分しか目に映らず、相手のすべてを受け入れようとしますから、その関係は必然うまくいきます。しかし生活を一緒にしていく中で、だんだんと相手の嫌な部分、自分にとって相手の不快な言動が目立って大きくなっていきます。そうしていつしか夫婦不和が形成されます。

離婚の背中を押したのは何を隠そう、父親の私です。なぜなら、“我慢”こそが二人の人生を、味気ない陳腐なものにしてしまうから。
よく「結婚は妥協とあきらめとガマンの連続」と言われますが、もしそれに順じた人生を歩んでいるなら、愚の骨頂だと私は思います。

結婚する意味、夫婦で在り続ける意味は「尊敬し合える仲」になることです。出会った当時のアイラブユーから、リスペクトし合える関係を目指していく。それが子育てにも良い影響を与え、幸せな家庭が具現化していきます。

結婚は嬉しい事で、離婚は恥ずかしい事。だから我慢してでも、結婚生活を営んでいくべきという考えは、今の時代もはや「化石」です。
変化を恐れずに、自分の気持ちに正直に生きて行く時代、それが令和。
すべての出来事には意味がある。そこに善悪はない。そこから何に気づき、何を学んで次に活かすか？ それこそが幸せな人生につながる生き方です。

彼女は才女でこちらも終始歓待しましたが、育って来た環境があまりにも我が家と違い過ぎて戸惑っていたと思います。我が家のごくごく平凡な家族だったら離婚はなかったかもしれません。
彼女も薬局を去って行ったお客様同様、こちらの健康観・人生観に違和感を覚えて離れていった一人なのかもしれない。変わったお父さんを持ってしまった息子たちには、申し訳なくも思っています。

生きる上で苦悩の根源は、すべて“執着”に帰結します。
「〇〇でなければならぬ！」という自分で確立したルールに、多くの人は縛られ苦しみます。
結婚に執着は不要。合わないと思ったら、縁がなかっただけと考えるお互い次に進めばいい。ドロドロではなく、サラサラっと生きて行く。
この世はマーヤ（幻想）。体験を恐れず、自分らしさを失わず生きること。
この経験を糧にして、きっとベストパートナーと出会ってくれるでしょう！